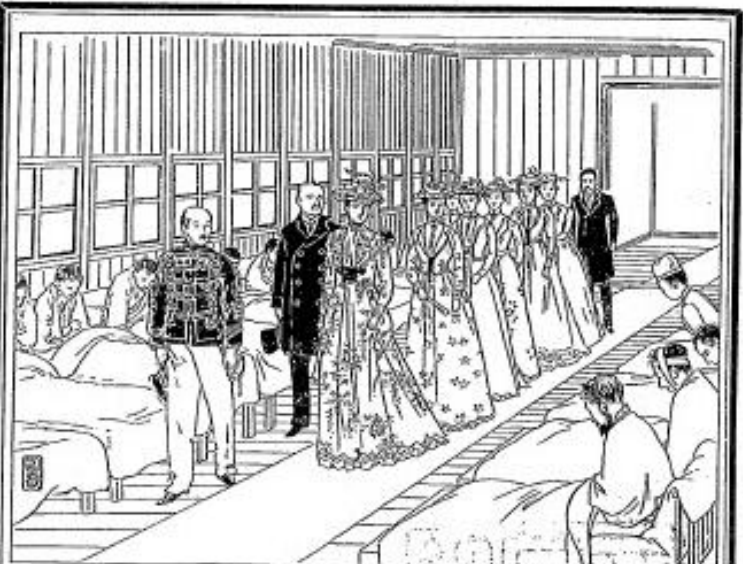
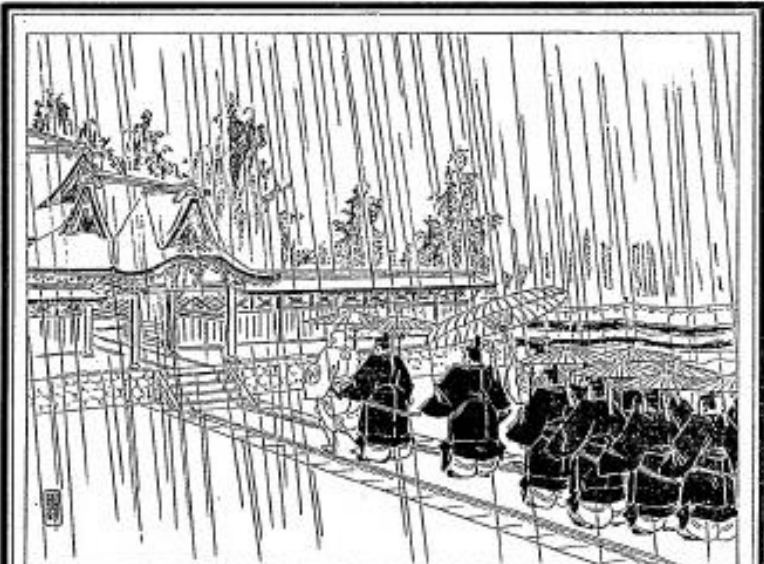


もくろく

だい一	こーごー(いか皇后陛下)...	二	だい二	ちーぎ...	三	だい三	そせん(祖先)...	四	だい四	こーこー...	五	だい五	きんべん(節麩)...	六	だい六	がくもん...	七	だい七	じえい(自營)...	八	だい八	にんたい(忍耐)...	九	だい九	ゆーき...	十	だい十	ものごとにあわてる	十一	だい十一	な...	十二	だい十二	なんぎをこらへよ	十三	だい十三	しーしき...	十四	だい十四	ところのとがめるこ	十五	だい十五	とをするな	十六	だい十六	しまんするな	十七	だい十七	しまんするな	十八	だい十八	どりー(度量)を	十九	だい十九	大きくせよ	二十	だい二十	けんこー(健康)...	二十一	だい二十一	けんやく...	二十二	だい二十二	じぜん(慈善)...	二十三	だい二十三	めしつかひをあ	二十四	だい二十四	はれめ...	二十五	だい二十五	おんをわすれる	二十六	だい二十六	な...	二十七	だい二十七	ともだち...	二十八	だい二十八	人をそねむな	二十九	だい二十九	れいぎ...	三十	だい三十	あづかりもの...	三十一	だい三十一	きんじよの人...	三十二	だい三十二	こーえき公益...	三十三	だい三十三	ふくしー(復習)...	三十四	だい三十四	ふくしー(復習)...	三十五	だい三十五	ふくしー(復習)...	三十六	だい三十六	ふくしー(復習)...	三十七	だい三十七	ふくしー(復習)...	三十八	だい三十八	ふくしー(復習)...	三十九	だい三十九	ふくしー(復習)...	四十	だい四十	ふくしー(復習)...	四十一	だい四十一	ふくしー(復習)...	四十二	だい四十二	ふくしー(復習)...	四十三	だい四十三	ふくしー(復習)...	四十四	だい四十四	ふくしー(復習)...	四十五	だい四十五	ふくしー(復習)...	四十六	だい四十六	ふくしー(復習)...	四十七	だい四十七	ふくしー(復習)...	四十八	だい四十八	ふくしー(復習)...	四十九	だい四十九	ふくしー(復習)...	五十	だい五十	ふくしー(復習)...	五十一	だい五十一	ふくしー(復習)...	五十二	だい五十二	ふくしー(復習)...	五十三	だい五十三	ふくしー(復習)...	五十四	だい五十四	ふくしー(復習)...	五十五	だい五十五	ふくしー(復習)...	五十六	だい五十六	ふくしー(復習)...	五十七	だい五十七	ふくしー(復習)...	五十八	だい五十八	ふくしー(復習)...	五十九	だい五十九	ふくしー(復習)...	六十	だい六十	ふくしー(復習)...	六十一	だい六十一	ふくしー(復習)...	六十二	だい六十二	ふくしー(復習)...	六十三	だい六十三	ふくしー(復習)...	六十四	だい六十四	ふくしー(復習)...	六十五	だい六十五	ふくしー(復習)...	六十六	だい六十六	ふくしー(復習)...	六十七	だい六十七	ふくしー(復習)...	六十八	だい六十八	ふくしー(復習)...	六十九	だい六十九	ふくしー(復習)...	七十	だい七十	ふくしー(復習)...	七十一	だい七十一	ふくしー(復習)...	七十二	だい七十二	ふくしー(復習)...	七十三	だい七十三	ふくしー(復習)...	七十四	だい七十四	ふくしー(復習)...	七十五	だい七十五	ふくしー(復習)...	七十六	だい七十六	ふくしー(復習)...	七十七	だい七十七	ふくしー(復習)...	七十八	だい七十八	ふくしー(復習)...	七十九	だい七十九	ふくしー(復習)...	八十	だい八十	ふくしー(復習)...	八十一	だい八十一	ふくしー(復習)...	八十二	だい八十二	ふくしー(復習)...	八十三	だい八十三	ふくしー(復習)...	八十四	だい八十四	ふくしー(復習)...	八十五	だい八十五	ふくしー(復習)...	八十六	だい八十六	ふくしー(復習)...	八十七	だい八十七	ふくしー(復習)...	八十八	だい八十八	ふくしー(復習)...	八十九	だい八十九	ふくしー(復習)...	九十	だい九十	ふくしー(復習)...	九十一	だい九十一	ふくしー(復習)...	九十二	だい九十二	ふくしー(復習)...	九十三	だい九十三	ふくしー(復習)...	九十四	だい九十四	ふくしー(復習)...	九十五	だい九十五	ふくしー(復習)...	九十六	だい九十六	ふくしー(復習)...	九十七	だい九十七	ふくしー(復習)...	九十八	だい九十八	ふくしー(復習)...	九十九	だい九十九	ふくしー(復習)...	百	だい百	ふくしー(復習)...
-----	-----------------	---	-----	--------	---	-----	------------	---	-----	---------	---	-----	-------------	---	-----	---------	---	-----	------------	---	-----	-------------	---	-----	--------	---	-----	-----------	----	------	------	----	------	----------	----	------	---------	----	------	-----------	----	------	-------	----	------	--------	----	------	--------	----	------	----------	----	------	-------	----	------	-------------	-----	-------	---------	-----	-------	------------	-----	-------	---------	-----	-------	--------	-----	-------	---------	-----	-------	------	-----	-------	---------	-----	-------	--------	-----	-------	--------	----	------	-----------	-----	-------	-----------	-----	-------	-----------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	----	------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	-----	-------	-------------	---	-----	-------------



だい一
こーごーへいかは、
びーいんにおいで
になって、けがをした
ぐんじんや、びーき
になったぐんじんを、
おみまひになりま
した。みなみなたい



ました。またあると
 し、家康のたんじょー
 日に、けらいをあつ
 めて、そせんのでが
 らを、はなしてきか
 せました。
 そせんを、たつとばね
 ばなりません。

だい四

二宮金次郎は、小さいときに、わらぢをつく
 て、おとうさんのので、だすけを
 しました。

おとうさんが
 なくなつてか
 らは、なはを
 なつたり、たき



ぎをきったりして、それをうって、おかあさんの
てだすけをし、また、おとうとをやしなひま
した。

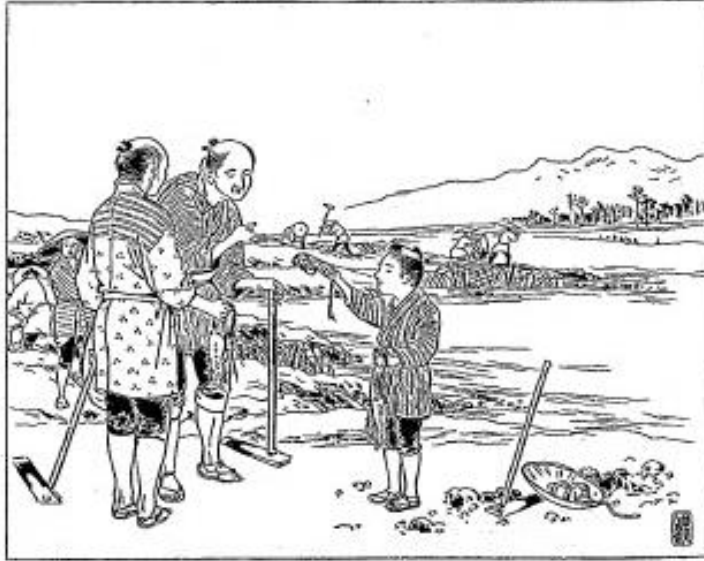
金次郎は、こーこーなこであります。

こーハ、トクノモト。

だい五

金次郎は、十二のとき、どてのふしんにでま
した。力がたらんので、ほかの人のせわにな

りましたから、わら
おをつくって、その
人たちに、おくりま
した。その人たちが、
やすんであるあひ
だにも、じぶんは、や
すまずに、はたらき
ました。



そ、ありがたがりました。

だい二

明治十年に、カゴシマのぞくが、クマモトの
しろをかこんだとき、しろの中からは、こち
らのよーすをとほくのか
んぐんに、しらせようと、
おもって、そのつかひを、
谷村計介に、いひつけ



ました。計介は、いろ
いろのなんぎをし
て、とーとー、そのつ
かひをしとげまし
た。

だい三

徳川吉宗は、家康をまつてあるお宮にまゐ
る日には、どんなに、雨がふっても、きつとまゐり





のかんたいを、一ねん
あまり、かこんでゐま
した。そのあひだ、雨が
ふっても、かぜがふいて
も、すこしも、ゆだんせ
ず、てきのよーすに、き
をつけてゐました。そ
して、しまひに、てきを



あれは、ててゐました。金次郎は、それを、じぶ
んで、なほして、すみ
ました。

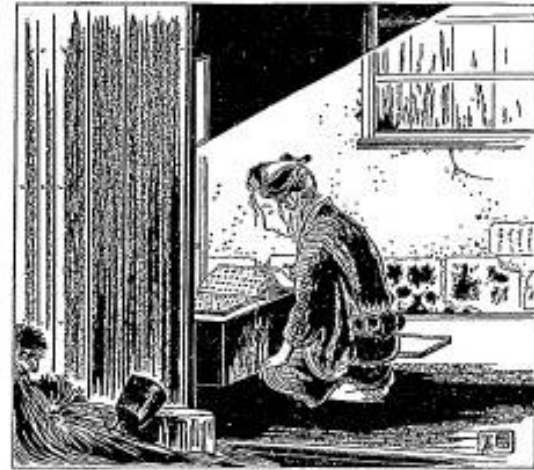
金次郎は、せいだし
て、はたらいて、しま

ひには、えらい人になりました。

だい八

イギリスのたいしー、ネルソンは、フランス

だい六



金次郎は、をぢの家にもましたとき、じぶん
で、なたねをつくって、た
ねあふらと、とりかへ
て、まいばん、べんきょー
しました。をぢは、「本を
よむより、うちのしご
とをせよ。」といひまし

八

たから、金次郎は、いひつけられたしごとを、
すましたあとで、べんきょーしました。
カンナンハ、人ヲタマニス。

だい七

金次郎が、じぶんの
家にかへりま
したとき、
その家は、



九

うちやぶりしました。

なにごとをするにも、しんぼーが、だいじで
あります。

だい九

後光明天皇は、かみ
なりがおきらひな
のを、なほさうとお
ほしめして、かみ



なりが、はげしくなるとき、わざと、み
すのそとに、でて、すわっておいでにな
りました。それからは、かみなりのお
きらひなことが、おなほりになりました。
ゆーきを、やしなはねばなりません。

だい十

日本武尊が、えぞを、ごせいばつに、おいでに
なると、ちゅーで、わるものどもが、のに、ひをつ



かちになりました。
 なにごとにもあわててはなりません。

けて、みことをやき
 ころさうとしまし
 た。みことは、ちっと
 もあわてず、こちら
 からもひをつけて、
 わるものどもにお

だゝ十一

日本武尊ヤマトタケルノミコトは、いろいろのごなんぎに、おあひ
 になつても、よく、ごしんぼーなさ
 て、わるものどもを、
 ごせいばつに
 なりました。



なにごとをするにも、なんぎをこらへねば
なりません。

十六



ワシントンは、には
にあそびにでて、お
とうさんの、だいに
にしてゐたさくら
の木を、きりたふし

だい十二

ました。これは、だれがきつた。」とおとうさんが、
たづねましたとき、「わたくしがきりました。」
と、かくさずに、こたへて、わびました。
おとうさんは、ワシントンのしよーじきなこ
とを、たいそー、よろこびました。

だい十三

この女のこは、おかあさんのいひつけに、そ
むいて、かひぐひをしました。あとで、あー、わ

十七

るいことをしたと、
おもって、ところがと
がめてなりません
でした。

おかあさんが、その
よーすをうたがって、
たづねましたので、
このことは、そのわけ



をはなして、わびました。
こころのとがめることをしてはなりません。
ん。

だい十四

むかし、タイマノケハヤといふ人がありま
したが、じぶんほど、力のつよいものは、ある
まい。』と、いって、じまんしてをりました。
そのときの天皇が、それをおききになって、ノ



んしてはなりません。

ミノスクネといふ人をよんで、力くらべをおさせになりましたが、ケハヤはまけました。
 力がつよくても、がくもんができて、しま

だい十五

むかし、貝原益軒といふ名だかいがくしが、ありました。るすのうちにて、すが、すまふをとって、益軒のたいじにして、あたぼたんの花を、をりました。でしは、しから



れるかと、しんぱいして、人にたのんで、わびてもらひましたが、益軒は、すこしも、おこらずに、ゆるしてやりました。

だい十六



益軒は、小さいときから、からだがよわいので、つねづね、よーじょーをしました。それで、じょーぶになって、八十五ま

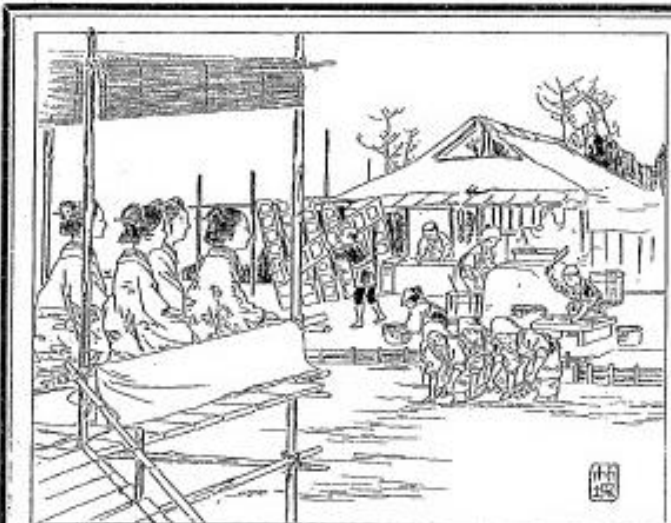
でもながいきしました。

けんこーは、たいせつであります。

ジローブナココロハ、ジローブナカラダニ、ヤドル。

だい十七

徳川光圀は、じょちーたちが紙をそまつにするので、紙すきはを見せにやりました。じょちーたちは、紙すき女が、ふゆのさむい日に、水



の中ではたらいてゐるのを見て、紙すきの
 しごとの、なんぎなこ
 とをさとりました。そ
 れから紙を、たいせつ
 に、つかふよーになり
 ました。
 ものを、むえきにつか
 てはなりません。

だいたい十八

鈴木今右衛門ふーふは、なさけぶかい人で
 ありました。そのこに、十二になるむすめが
 ありましたが、あるさむい日、おなじとしご
 ろの女のこが、ものもらひにきました。今右
 衛門のつまは、むすめにむかって、「あのこは、ひ
 とへもの一まいで、ふるへてゐますが、おまへ
 のきてゐるわたいれを、一まい、ぬいでやり



なんぎな人を、すくはねばなりません。

ませんか。といひました。むすめは、おとなしく、よいほーのわたいれをぬいで、あたへましたので、今右衛門ふーふも、たいそー、よろこびました。

だい十九

田邊晋齋は、さむいばんに、ともをつれて、人の家にいきました。かへるとき、ともものものが、もんのそとに、さむさうに、たつてゐるのを見て、「あー、きのどくであつた。」といつて、いたは



りました。それからさむいはんはなるべく、
そとへ、でんよーに、きをつけました。

めしつかひを、あはれまねばなりません。

ヨイシュジンノモトニ、ヨイメシツカヒア
リ。

だいに二十

彌兵衛のしゅじんが、しまながしにあひまし
た。彌兵衛は、ごおんがへしは、このときだと



せつにせわをしました。

おもって、まづ、いっしん
に、ふねをこぐことを
ならひました。そして、
はるばる、しまにわたっ
て、しゅじんにあひまし
た。しゅじんが、ゆるされ
て、かへってからも、しん



伊藤冠峰と南宮大
湫とはなかのよい
ともだちでありま
した。大湫は、かぞ
をのこして、江戸に
いきました。かじ
にあつたため、かぞ

くを、よびよせることが、できませんでした。
冠峰は、それを、きのどくに、おもって、りよひをこ
しらへて、大湫のかぞくを、江戸まで、おくって
やりました。
ともだちには、しんせつに、せねばなりません。
ん。

吉田松陰のでしに、高杉と久坂といふ二人



のしよせいがありました。高杉は、べんきょーし
 ませんから、松陰は、つ
 ねに、久坂をほめて、高
 杉をいましめました。
 高杉は、それから、よく
 べんきょーして、がくも
 んがすすみましたの
 で、松陰は、高杉をほめ

て、なにごとも、高杉とそーだんするよーに
 なりました。それでも、久坂は、けっして、高杉を
 そねまずに、「高杉くんは、えらい人だ。」と、いって
 りました。高杉も、「久坂くんは、りっばな人だ。」と、
 ほめてゐました。松陰は、このことをきいて、
 たいそー、よろこびました。
 人を、そねんではなりません。

あるところに、一人のむすめがありました。八さいになっても、れいぎをまもりませんから、おとうさんは、どうかして、それをなほしたいとおもひました。

ある日、おとうさんは、むすめをよびよせて、れいぎのたいせつなことを、をしへ、そして、一まいの紙をかべにはりつけさせて、むすめがいやしいことばづかひや、ぶさほーな

ふるまひをするたびに、その紙に、くろほしをつけることにしました。としのくれになつて、むすめに、そのかずをかぞへさせて、いま



しめました。むすめは、それから、だんだん、れいぎをまもるよーになつて、とーとー、一つの

くろほしもつかんよーになりました。

三十六

だい二十四

太郎は、じぶんのうちに、あづかったかうもりがさをさして、でかけようと思いました。ねえさんは、それをとめて、「それは、あづかりものであるから、かってに、つかってはなりません。じぶんのを、おさしなさい。」といひました。太郎は、ねえさんのいふことをきいて、そのかさ



ません。

を、もとのところにし
しまつて、じぶんのか
さをさして、いきま
した。
あづかりものを、か
つてに、つかってはな

だい二十五

三十七



佐太郎は、きんじょの人たちにしんせつをつくしました。あるとき、きんじょの人の家のやねが、やぶれてゐるのを見て、村の人たちから、わらをもらうてやうて、それをなほさせました。また、かじにあつ

た人には、たけをきつて、あたへました。きんじょの人は、なかよくして、たすけあはねばなりません。

だい二十六

佐太郎の村に、どばしがありました。が、たびたび、そんなして、村の人たちが、なんぎをしました。佐太郎は、人人とそーだんして、それを石ばしに、かけかへました。それからは、こは

れることもなく、村の人たちは、たいそー、よろこびました。よのためになることをするのは、人のつとめであります。

だいで二十七

よい日本人ちうほんじんになるには、ちーぎちーぎのころを、



もたねばなりません。

おとうさんや、おかあさんには、こーこーをつくし、きょーだいは、なかよくし、ともだちには、しんせつにし、めしつかひをあはれみ、きんじよの人には、よくつきあはねばなりません。

なにごとにも、しよーじきで、ころのとがめるよーなことをせず、ゆーきがあつて、しんぼ

「づよく、ものごとにあわてんよーにし、じぶんのごとは、じぶんでし、そして、なんぎをこらへねばなりません。また、からだをじょーぶにし、けんやくをまもって、しごとに、せいださねばなりません。」

そのほか、れいぎをまもり、じまんをせず、おんをうけては、わすれんよーにし、人をそねむよーなことなく、どりょーを大きくし、人の

ものを、だいじにせねばなりません。

かよーに、じぶんのおこなひをつつしんで、よく、人にまじはり、そのうへ、よのため、人のために、つくすよーに、ところがけると、よい日本人にほんじんになれます。

明治三十六年十一月七日印刷
明治三十六年十一月九日發行

非賣品

著作權所有

著作兼發行者
文部省

印刷者
印刷局